

逆に一部が突出している変形は鳩胸と呼ばれています。

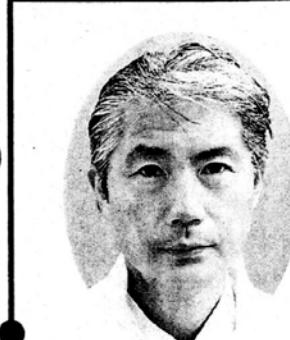
こうした「あばら」の形の悩みを持っていても、その悩みに続けておられる患者さんはたくさんおいでになります。多くの患者さんは思春期もしくは青春期にあり、形についての悩みを吐露することが恥ずかしい年頃であります。多くお年頃でいる患者さんも大きな原因となっています。

が、「いったい誰に相談したら足の進歩を遂げています。過去胸のかたちを治す治療は、長

## 四国健康 十七

香川大医学部形成外科・美容外科

なが さお  
永竿 智久 准教授



「あばら」という言葉を辞書で引くと「疎なる骨の意味。肋骨」という解説がなされています。この意味での「あばら」の変形を生まれつき持っている人は比較的多く、200人ないし300人に1人が胸のかたちについての悩みを持っていると考えられています。胸のかたちが凹んでいる変形は漏斗胸、

きな切開を加えた後に、肋骨や胸骨をいったん分解し、それを再び組み立てる方式がとられていました。しかし最小限の皮膚切開で、変形の強い部分に対してのみ手術操作を行う技術の開発が急速に進んだため、現在においては以前とは比較にならないほどの入院期間および身体的負担で、「あばら」の形の修正を行うことができるようになりました。

とはいっても、「あばら」の変形とは言っても、患者さんに応じて変形のパターンが千差万別にわたります。良い結果を出すために、こうした差異を考慮した上で治療を行わなくてはいけません。

香川大学病院形成外科においては、工学技術を応用した手術システムを開発し、個々の患者についてオーダーメイドの治療計画を立てた上で、最良の結果を出すプロジェクトに取り組んでいます。またその取り組みをホームページにおいて公開し、全国の患者さんに向けて情報を発信しています。「あばら」の形にお悩みの方は、ぜひご相談ください。

# 「あばら」の変形を治すには